



Cisco CallManager の設定

Cisco CallManager の設定では、同一クラスタ内にインストールされている Cisco CallManager それぞれに対して、ポートおよびその他のプロパティを指定します。クラスタは、冗長化機能を有効にした一群の Cisco CallManager から構成されます。

Cisco CallManager クラスタの最初のノードについては、インストールの過程でサーバが自動的に追加されます。この他の Cisco CallManager をクラスタに追加するには、管理者が (Server Configuration を使用して) サーバを設定し、その Cisco CallManager を (Cisco CallManager Configuration を使用して) 追加する必要があります。この手順を、クラスタに配置する Cisco CallManager ごとに繰り返します。

Cisco CallManager の設定を検索および更新したり、システム コンポーネントのバージョン情報を表示したりするには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2\)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-3\)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-4\)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [関連項目 \(P.3-8\)](#)

Cisco CallManager の検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco CallManager が存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の Cisco CallManager を見つけることができます。Cisco CallManager を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Cisco CallManager の順に選択します。

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、Cisco CallManager を検索します。

ステップ 2 最初の Find Cisco CallManagers ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description

2番目の Find Cisco CallManagers ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されている Cisco CallManager をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco CallManager のリストが、次の項目別に表示されます。

- Cisco CallManager Name
- Description

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウでは、ページごとに表示する行数も指定できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco CallManager 名をクリックします。

選択した Cisco CallManager がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager の更新

Cisco CallManager を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 System > Cisco CallManager の順に選択します。

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco CallManager を更新するには、対象となる Cisco CallManager を見つけます (P.3-2 の「[Cisco CallManager の検索](#)」を参照)。更新する Cisco CallManager をクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 3-1 を参照)。

ステップ 4 Save をクリックします。

追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager の設定値

表 3-1 では、Cisco CallManager の設定値について説明します。関連する手順については、P.3-8 の「関連項目」を参照してください。

表 3-1 Cisco CallManager の設定値



フィールド	説明
サーバ情報	
Cisco CallManager Server	この読み取り専用フィールドには、Cisco CallManager がインストールされているサーバが表示されます。
Cisco CallManager Name	この Cisco CallManager に割り当てる名前を入力します。
Description	Cisco CallManager の説明を入力します。
自動登録情報	
Starting Directory Number	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。
Ending Directory Number	デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。  <p>(注) Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の有効な範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Partition	<p>パーティションを使用しない場合は、<None> を選択します。</p> <p>パーティションを使用している場合は、自動登録された電話番号が属するパーティションをドロップダウンリストボックスから選択します。</p> <p> ヒント Partition、External Phone Number Mask、または Voice Messaging Box Mask を選択する前に、自動登録用の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>パーティションの数が 250 より多い場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Select Partition ウィンドウを表示するには、... ボタンをクリックします。 2. List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。 3. Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックします。 4. OK をクリックします。

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
External Phone Number Mask	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。 発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 <p>次の例を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルートパターンで Use External Phone Number Mask オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。 代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。
Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager	<p>Cisco CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録を使用可能にするか使用不可にするかを選択するには、次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco CallManager で自動登録を使用可能にするには、Auto-registration Disabled チェックボックスをオフにします。 この Cisco CallManager で自動登録を使用不可にするには、Auto-registration Disabled チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> 自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。 Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定しても、自動登録が使用不可になります。 このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、開始電話番号と終了電話番号が指定されている場合、Cisco CallManager は、開始電話番号と終了電話番号を同じ値に設定します。 <p>Cisco CallManager は、自動登録が使用不可になると、パーティションと外部電話マスク情報をリセットします。</p>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
このサーバの Cisco CallManager の TCP ポート設定値	
Ethernet Phone Port	<p>Cisco CallManager は、ネットワーク上の Cisco IP Phone (SCCP のみ) との通信に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート値 2000 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。2000 を選択すると、このポートはノンセキュアとして識別されます。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。 セキュリティの設定については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
MGCP Listen Port	<p>Cisco CallManager は、関連した MGCP ゲートウェイからメッセージを検出する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2427 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
MGCP Keep-alive Port	<p>Cisco CallManager は、関連する MGCP ゲートウェイと、キープアライブメッセージを交換する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2428 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
SIP Phone Port	<p>このフィールドには、TCP および UDP による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco CallManager が使用するポート番号を指定します。</p>
SIP Phone Secure Port	<p>このフィールドには、TLS による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco CallManager が使用するポート番号を指定します。</p> <p>セキュリティの設定については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化には、次の要件が適用されます。

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)

追加情報

[P.3-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager サービスのアクティブ化

Cisco CallManager の新規インストールを実行する場合は、次の手順に従う必要があります。

1. サーバを追加します。サーバが設定されると、Cisco CallManager が自動的に追加されます。
2. 『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』の説明に従って、Cisco CallManager サービスを有効にします。

この手順に従わない場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

[P.3-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager サービスの非アクティブ化

Cisco CallManager サービスは、Cisco CallManager Serviceability で非アクティブにすることができます。Cisco CallManager サービスを非アクティブにすると、サービスを非アクティブにした Cisco CallManager は非アクティブになり、使用されなくなります。



(注)

Cisco CallManager Serviceability の **Tools > Service Activation** にアクセスすると、Cisco CallManager のステータスを表示できます。

Cisco CallManager サービスを非アクティブにした場合、その Cisco CallManager 上ではコールを発信できなくなります。

Cisco CallManager Administration Web サービスがアクティブになっていて、データベースが起動し、動作している場合は、非アクティブになった Cisco CallManager に対して設定操作を実行できます。

Cisco CallManager 上でもう一度 Cisco CallManager サービスをアクティブにすると、Cisco CallManager が元の設定（サーバ名または IP アドレス）のままで自動的にデータベースに再作成されます。この Cisco CallManager がアクティブになります。Cisco CallManager サービスが動作していることを確認するには、Cisco CallManager Serviceability の **Tools > Control Center - Feature Services** にアクセスします。

サービスのアクティブ化の詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability システムガイド*』および『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

追加情報

[P.3-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2\)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-3\)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-4\)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-1\)](#)
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*